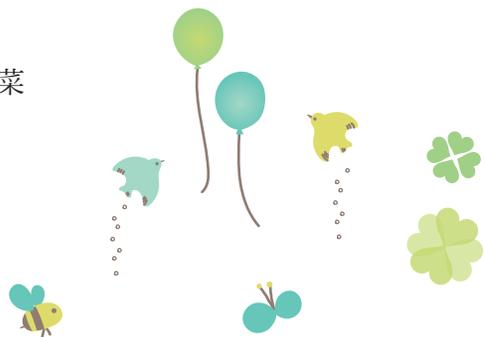




OG/OB と学生を結びながら、懐かしさと新しさ香る筑波の風を季節の便りとしてお届けしていきます。

INDEX

1. 『私の行く道、坂ばかり』 / 山田優芽
つくば市～土浦方面への坂道をご紹介します
2. 『当たり前なものなんてない!?!』 / 天野隼太
大学生活で感じたこと
3. 『東京レインボープライド参加したルポ』 / 後藤佳怜
筑波大 初出展で300人超来場 盛況の裏側を追う
4. 筑波大学周辺の植物～春編～ / 磯良春佳
国立科学博物館 筑波実験植物園 クレマチス園公開
5. 『映画ロケ地・妻木バッティングセンター』 / 北川瑠菜
ロケ地から見るつくばの魅力スポット
6. 『つくばと「がま」の不思議な関係』 / 中村瑞歩
大学時代…あなたの身近にもガマの影が…?





1. 私の行く道、坂ばかり

私の移動手段は大半が自転車です。それなのにそれなのに、行く先々にきつつい坂があるんです。それぞれ違う目的地で違う道なんですけど…。どれも一本の坂道で、行きは下り、帰りが上りです。今回はそれらの3本の坂について、坂を超えた景色と共に紹介していきたいと思います。

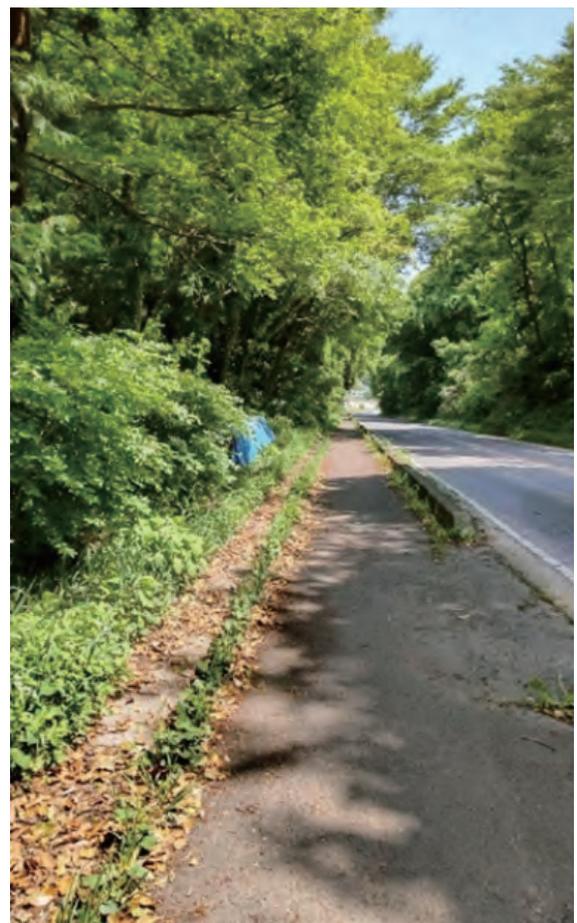
1つ目の坂が、農業系サークル「のうりんむら」の畑に行くまでの道にあります。のうりんむらの畑までは平砂学生宿舎から自転車で約20分ほどかかります。この坂は住宅街～田畑（以降ずっと田畑）をつなぐゆるやかな坂道で、この坂道で一気に景色が変わります。県道201号線の比較的広い道で車通りは多いですが、歩行者はほとんどいません。加えてのうりんむらの活動開始は朝7時ということもあり、人っ子一人いない坂を独り占めできます。サーっと風を切って気持ちよく、気分はつくばの主人公です。

しかし、同時にこの坂はのうりんむらの畑に通うのを億劫にする障壁でもあります。だって、帰りがきついから。ゆるやかな分、漕いでも漕いでも平地にたどり着けません。「あゝ、にんげんって落ちるのは簡単なのに、這い上がるのは大変なのね」などと考えながら登るのです。そうして、サークルの畑に行く気は失せていくのでした。

2つ目の坂が、田んぼの手伝いに穴塚という里山へ行くまでの道にあります。穴塚は土浦学園線沿いで土浦イオンの近くにあり、平砂学生宿舎から自転車で約50分ほどです。この坂は、林を切り開いたような所で、道幅も狭くかつ急です。横を通る車も早いし（絶対制限速度超えてる）ちよくちよく歩行者や他の自転車もいるので、調子に乗れない坂です。

以前この坂に猫の死骸がずっと放置されていたのですが、生物好きの友人が通る度にまじまじと眺め、「今日もあったね!」「もう少し白骨化を待って頭蓋骨を持ち帰りたい…」と話していたのが印象的でした。友人の手に渡る前に気づいたらなくなっていました。

坂道を下ると一面が田畑。あとは穴塚までずっと田畑。コンビニやら建物やらが数えるほどあるくらいです。交通量はまあまあある道なので、「しめようシートベルト」と書かれた看板のすぐ下に「肛門のしまり 大見クリニック」という看板があ



坂の始まり。写真だと平らな道に見えますが、実は結構急です

るのがこの道の楽しいポイントです。なぜか昨年、下の看板は換えられちゃったんですけどね、なんででしょうね。



写真は下の看板が換えられる前（私の記憶から描いたもの）と後

そして目的地「穴塚」に到着です。本当に美しい里山。良い場所ですよ。土浦駅から筑波大学に通っていた方なら穴塚の横をバスで通っていたのではないかと思います。



穴塚の里山。のどか

3つ目の坂が、教育ボランティアの際に公民館へ行く道にあります。この坂は穴塚に向かう際に通る坂と隣接していて同じく林を切り開いたような所です。同じようにこの坂を超えると一面田畑。ただ、少し進むと時代を一つ巻き戻したような町並みに出会える点が他の2つとは違います。商店街にあるような魚屋、八百屋、お菓子屋が住宅地の中にぽつりと点在しています。建物も古く、昔からの景色をそのまま残したような場所に、不思議な気持ちになります。



商店が点在する町。手前は八百屋、奥にお菓子屋

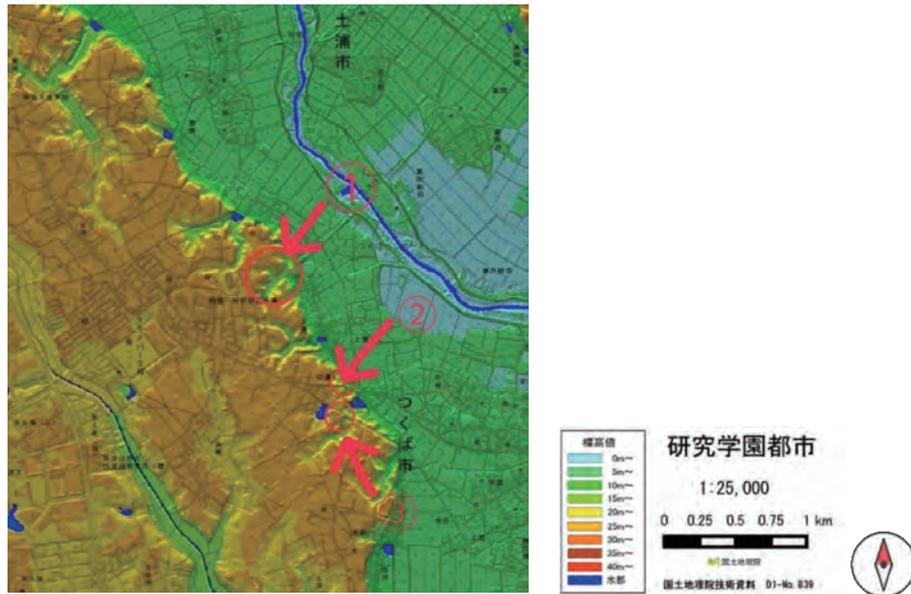
お菓子屋さんに入ってみると、駄菓子や和菓子がたくさん置いてありました。店主は基本的に裏にいて、呼べば出て来てくれます。80年くらい続いているお店だそうです。

店主は和菓子職人で、和菓子がたくさん並んだショーケースを前に「散歩していると、あの紅葉、和菓子にしたらきれいだろうな〜とか考えちゃうんだよね」と話していました。そんな素敵な思考、私もほしい！



和菓子屋さん。この日買った和菓子四つのうち三つは一人で平らげた

それにしても、なぜ私の行く先々は坂なのか！と思い、国土地理院の標高を示す地図を見ました。すると……つくば市と土浦方面に見事に標高の差があり、地図が色で2色にきっぱり分かれています。私は標高の高いオレンジ色の地域から低い緑色の地域へ移動するために、どうあがいても坂にあたってしまうわけです。どれも、行きで下るのは良いのですが、帰りがきつい。私は好きなものは最後に残しておくタイプなので、行きで上って帰りに楽したいです。



出典：国土地理院技術資料より加工
 (①のうりんむら、②教育ボランティア、③穴塚に向かう際の坂)

しかし、こんなにこれらの坂を頻繁に使っている人はなかなかいないのでは、と思います。私が卒業生になって、「学生時代の思い出の場所は？」などと聞かれたら、今と同じ話を使い回そうと思います。坂は、学生時代の思い出と結びつく場所になりそうです。

(人文・文化学群 比較文化学類 3年 山田優芽)



2. 当たり前のものでない！？

桜が散ったところから段々と気温が上がり、過ごしやすい季節になりました。5月晴れの空のもと、風にそよぐ木々の緑がまぶしいです。筑波キャンパスを歩いていると、半袖の T シャツを着た学生やサンダルを履いた学生をちらほら見かけるようになりました。夏が近づいてきたんだなあとしみじみ思う今日この頃です（ただ、急に寒くなるときがあるので、まだまだ油断はできませんね……）。

さて、このような前置きはさておき、本題に入ります。と言いたいところですが、なかなかテーマが決まりません。あーでもない、こーでもないといろいろ考えました。しかし何も思いつかないまま、気づくと 20 分がたち、まぶたが重くなってきたので、気分転換に大学構内を歩いてみることにしました。歩き始めたのはちょうど 12 時ごろ。中央図書館を出て、第二エリアと第三エリアの間にある噴水あたりまで行って、戻って来るコースです。

お昼の時間帯ということもあり、外にはたくさんの方がいました。自転車に乗り気持ちよさそうに風を切る学生、スタバのコーヒーを片手にベンチで本を読む学生、噴水前の芝に座り友達同士で購買のパンを食べる学生……。一人一人の学生がとても生き生きしていました。

私は、しばらくその景色をぼんやり眺めながら歩いていましたが、突然ある気持ちが芽生え始めました。それは「この景色を入学したての自分に見せてやりたかった」です。思い返せば、自分が入学した 2020 年はコロナが流行り出した時期。4 月につくばに引っ越してきたはいいものの、大学は入構禁止でした。禁止が解除された後も、しばらく大学には人っ子一人いないような景色が広がり、今では想像できないくらい静まりかえっていました。「さまざまな学生がいて、良い意味での“騒がしさ”がある生活」。思い描いていた「当たり前のキャンパスライフ」が音を立てて崩れていく日々でした。

そう思うと、「当たり前のもの・ことなんてない」と強く実感します。これは良く言われる言葉で、私自身もいろいろな場面で耳にします。しかし、それはほとんど表面的に理解していたというか、わかっているつもりになっていました。大学生活を送る中で、はじめて身をもって理解した気がします。

今までの大学生活を振り返ると、何度か「当たり前のもの・ことなんてない」と実感した場面があります。先程紹介した、入学時の経験もその一つです。1 年生のときに「当たり前」を感じられなかったことは残念ですが、今はその「当たり前」が少しずつ戻ってきているような気がするのととても嬉しく思っています。一方で、一度崩れてしまった「当たり前」が、修復不可能になりかねない（別の形になってしまう）こともあるでしょう。私にとってそれは、キャンパス交通システムのキャンパス定期券です。

みなさんはキャンパス交通システムをご存じですか。これは、つくばセンターから筑波キャンパスを循環するバスに、年間何度も自由に乗り降りできるシステムで、2005年からはじまりました。このシステムを利用するための定期券が、キャンパス定期券です。この定期券は1年間有効で、価格は9,500円でした（導入時は学生4,200円で教員が8,400円、その後運営費用増などの理由で少しずつ値段があがり、令和2年より一律9,500円）。「でした」という言葉で気づいたかたもいらっしゃるかと思いますが、今はその値段ではありません。今年4月からは1万9,000円になりました。当初私は、約2倍という値上げにとっても驚きました。しかし、縁あってキャンパス交通システムの制度管理をしている総務部の方と、運行者である関東鉄道の方からお話を聞くと、そこには切実な理由があると分かりました。以下に簡単にまとめます。

①キャンパス交通システムを維持するために必要な費用は、大学が、関東鉄道から定期券6,000枚を一括購入することで賄うことになっていた（定期券の値段は、大学が一括購入することを条件に、本来9万6,770円のところを9,500円に抑えられていた）。

↓

②しかし実際は、それだけでは費用が足りず、関東鉄道のご厚意でその分を補填していた

（関東鉄道の方によると、当時の担当者の方の「キャンパス交通システムがあれば、筑波大生がバスに乗るという習慣がつくだろう。その筑波大生が卒業して地元に戻った時、その習慣が、利用者が減少しつつあるバス産業を支えることにつながるかもしれない」という思いがあったそうです）。

↓

③しかしコロナ禍になり、定期券の購入者とバスの利用者は減少。関東鉄道全体で経営が悪化し、補填をする余裕がなくなってしまった。

↓

④このままでは、システムの運営できないということで定期券の廃止（本来の定期券価格への変更）案まででた。しかし学生の利便性を保つため廃止することは何とか避けたい。そこで1万9,000円に値上げすることを条件に、なんとかキャンパス定期券が存続した。

みなさん、いかがでしょうか。値上げの判断自体が良かったのか否かは、ここでは議論しません。ここで伝えたいのは、普段、学生や教職員が何気なく利用していたキャンパス交通システムは、実はコロナ禍による利用者減や定期券購入率の減少という大きな問題を抱え、定期券の廃止論が出てしまうほど深刻な状況にあるということです。言い換えれば、「当たり前」がそうでなくなる一歩手前だったということです。「経営悪化が進めば、路線自体がなくなることも可能性としてありえる。バスが走っていることを決して当たり前だとは思わずに、ぜひバスを利用してほしい」。関東鉄道の方の言葉がとても印象的でした。

「当たり前」のことは、段階的ではなく急になくなる場合が多い気がします。なぜそう感じるかという、「当たり前」のものは、名前の通りそこにあることが当然なので、普段気に掛けることがないからです。私たちは、「当たり前」ゆえにその変化やありがたみに気づかず、「当たり前」

でなくなったときにやっと気づく傾向にありがちです。私のお話でいうと、コロナ禍になり大学が入構禁止によって「当たり前」の崩壊があったからこそ、キャンパスライフという「当たり前」に思っていたものの大切さに気付きました。またバスに関しても、定期券の値上げという、「当たり前」を何とか保とうという応急措置があったからこそ、その背景にある苦しい現状を知ることができました。「当たり前」はその背景に誰かの努力や苦労があってはじめて「当たり前」を保つことができるのだと強く感じます。

でも、「当たり前」がなくなってから / なくなりかけてから気づくのは遅すぎます。「当たり前」のことだからこそ、なくなったときにどうなるかを想定して普段から気にかけてみるのが大切なのではないでしょうか。「当たり前」ではなくなりつつあるかもしれないと感じたら、どうすれば「当たり前」に戻るのか考える必要があると思います。その一歩が状況を変えるかもしれません。今後の大学生活の中では、今の「当たり前」に感謝すると同時に、本当にそれが「当たり前」なのか、どうしてそれを「当たり前」と感じる事ができているのか、もう一度考え直していきたいです。

(人文・文化学群 比較文化学類3年 天野隼太)

3. 東京レインボープライド参加したルポ



渋谷を虹色に染める 3 日間——。LGBTQ などの性的マイノリティと、アライ※のための日本最大級のお祭りが 4 月 22～24 日、代々木公園で開かれました。東京レインボープライド (TRP) 2022 の「プライドフェスティバル」です。

昨年、一昨年は新型コロナウイルスの影響でオンライン開催を余儀なくされました。3 年ぶりの対面開催となった今年、筑波大学が初めて単独でブースを出展しました！学生ボランティアとしてブース運営に携わった私が、当日の賑わいや準備の裏側をお伝えします。



最終日の入口前。すごい人混みでした



学生・教職員ボランティアのみんなと

■会場の雰囲気、どんな感じ？

さまざまな企業や NPO、大学などが参加する TRP。会場には各団体のカラフルなテントがずらりと並びます。コンドームや潤滑ゼリーの無料配布、性に関する知識クイズ、虹色の旗を持って写真撮影ができるコーナーなど、個性豊かなブースを巡るのが醍醐味です。



テントが並ぶ様子



筆者も撮影コーナーで遊びました

一緒に会場を回った筑波大生の A さんは、コンドームが配られることに驚いていました。3 年前のプライドフェスティバルにも参加した私にとっては慣れた光景でしたが、確かに最初は多少衝撃を受けますよね。コンドームは HIV などの性感染症予防と避妊にとっても重要なアイテム。正しい使い方や性感染症予防を学べるコーナーもあり、勉強になります。



会場で無料配布されていたお土産たち



チェリオ社の炭酸飲料 LIFEGUARD の虹色バージョンも毎年無料で配られています

■筑波大ブースでやったこと

筑波大は 2019 年にも東京大学の有志と共同でブースを出していますが、大学として単独で参加するのは初めてです。学生・教職員ボランティア 20 人が運営に携わり、絵馬に大学や社会への願いを書く企画「#ITF 絵馬に願いを」を実施しました。



絵馬を飾る来場者

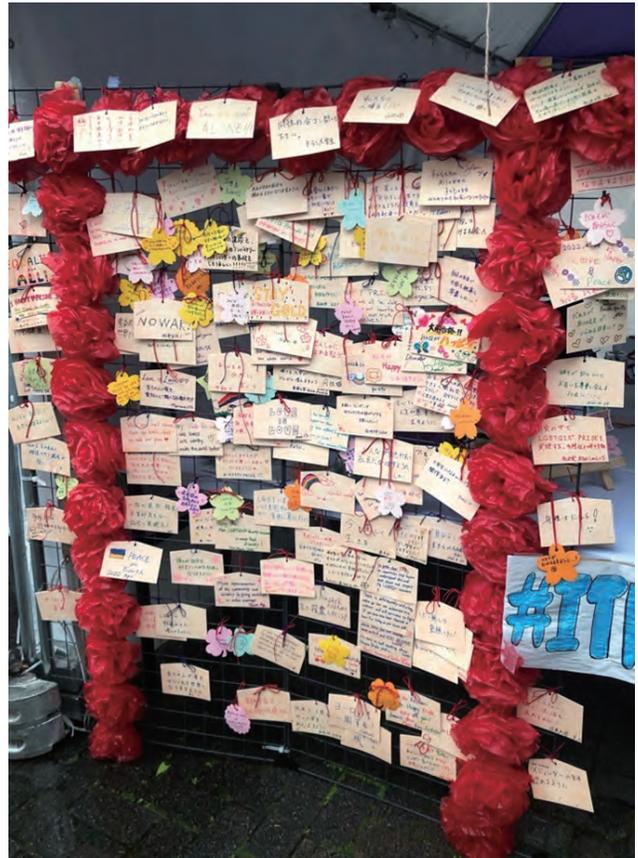


300 枚以上の絵馬が集まりました！

3日間で集まった絵馬はなんと318枚。
「同性婚が実現して欲しいな」
「苦しんでいる学生が『自分らしく』生きる選択ができるような教育を」
「非正規雇用者やマイノリティにも優しい大学をつくりたい」
など、一枚一枚に切実な想いがこもっています。英語や中国語、タイ語やフランス語など多言語のメッセージもたくさんありました。

絵馬でびっしり埋まったテントの中にいると、温かい気持ちになると同時に「早くSOGI差別のない社会にしないと」と強く思わされます。

筑波大ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター（DACセンター）のウェブサイトや、専用Twitterアカウント（@TRP2022_Tsukuba）でもメッセージを募集し、会場の様子をハッシュタグを付けて投稿しました。



最終日には飾る場所が足りないほどに！

■なぜ筑波大が参加？

実は大学の参加は珍しく、筑波大の他にはお茶の水女子大学のゼミと早稲田大学しかブースを出していません。ブースを訪れた都内の大学生は「うちの大学でも出展したい。筑波大が羨ましい」と言っていました。また「大学としてTRPに参加するようになってくれてうれしい」と喜ぶ卒業生も多くいました。

ではなぜ、今回筑波大がこのようなブースを出すに至ったのでしょうか。責任者を務めたDACセンターの河野禎之助教(人間系)によると「3年前に有志で参加した時から、次は筑波大としてブースを出そうと決めていた」とのこと。

また、来場者に絵馬を書いてもらうという企画について「ただ何かを展示するよりも、絵馬を介して来場者と交流するタッチポイントが作れる。学生が主体的に動いている風景を来場者に見てもらうことが一番の狙い」と話しています。

■学生・教職員ボランティアの活躍

筑波大ブースの運営を支えたのは11人の筑波大生と9人の教職員でした。3月初頭にボランティア募集が始まり、約1カ月半の間準備に奔走しました。

絵馬用のカードや、絵馬を結びつける枠などの備品購入、テントに飾る横断幕や、スタッフTシャツのデザインと発注、メッセージ募集フォームの英訳まで、作業は多岐に渡ります。当日はシフ

トを組み、呼び込みや来場者対応、写真撮影など、それぞれの得意分野を生かしながら活動しました。

プライドフェスティバル終了後、今回のボランティアメンバーを中心に新しく「いろいろつくば」という団体が立ち上がりました。性的マイノリティ当事者とアライの筑波大生、教職員、卒業生が繋がるコミュニティとして、来年もTRPに参加する予定です。



■1人の筑波大生として思ったこと

イベントを通じて感じたのは、「大学として」こういった場に参加し、前向きな活動をアピールすることの重要性です。

来場者の1人に、高校の教員の方がいました。性的マイノリティ当事者の生徒の進路指導をしているそうです。「相談体制や支援制度が整っている大学を紹介してあげるために、筑波大の取り組みを知りたい」と、ブースに立ち寄ってくれました。

大学の看板を掲げ、「筑波大でこんなことやってるよ！」と発信することで、学内の当事者だけでなく、その家族や友人、受験生、高校教員、他大学の学生や教職員など、想像以上に多くの人を勇気づけられると感じました。



両親と来場した4歳の子が描いてくれた絵馬。
虹色のユニコーンが印象的でした。

一方で、筑波大のLGBTQなどに関する取り組みを知らない学生・教職員も多くいます。そしてもちろん、全ての性的マイノリティ当事者が過ごしやすい大学になっているわけではありません。

来年以降筑波大がさらに良いロールモデルとなって、性の多様性を尊重する取り組みが全国の大学に波及していけば、一筑波大生としても誇らしいと思うばかりです。

※アライ：性的マイノリティ当事者に共感し、協働・支援する人のこと

(社会・国際学群 社会学類4年 後藤佳怜)

4. 筑波大学周辺の植物～春編～



「筑波大学は森」という言葉は、学生時代皆さんも耳にしたり、自虐的に使ってみたりしたことがあるのではないのでしょうか。筑波大学のポスターにも「大学なのか 森なのか」というキャッチフレーズを使用されたりなど、聞き馴染みがある言葉かもしれません。私自身も、高校時代の友人に対して使ってみたことがあります。そんな自然に囲まれた本学では、植物の変化や見られる花々で四季を感じられることができます。また、筑波大学内はもちろん、筑波大学の近辺にも自然に触れ合える場所が沢山あります。

そこで、今回から筑波大学周辺に見られる植物で読者の皆様方に季節をお届けしたいと考えました。第一弾春編（もう初夏ですが）は、筑波実験植物園のクレマチス園です。

筑波大学生なら無料で入園することができるので、皆様の中にも訪れた経験がある方も多いかも知れません。ちなみに私は、つくば生活6年目にして初めての来園でした。入ってみると、意外と広い。体感で想像の3～4倍くらいは広がったです。歩くだけでいい運動になるし、見ていて飽きないのでもっと早く訪れていればな…と少し後悔。

さて、クレマチス園ですが今年は、4/29(金)～6/5(日)の公開です。私は5/3に行ってきました。開花状況は、まだ蕾の株がチラホラあるような感じでしたが、概ね満開といった感じで、十分楽しむことができました。

「【国立科学博物館公式】かはくチャンネル」の紹介動画によると、鑑賞できる種類はなんと約250種類とのこと。クレマチスとは、キンポウゲ科センニンソウ属（Clematis）の総称で、世界に300種ほどが分布し、多くは蔓性。その一部が交配親となり、数千もの園芸品種が作出されています。今年のテーマは「日本の野生のクレマチス」で、日本に自生する種について、展示パネルや特別セミナー、展示キャプションなどで紹介されているそうです。クレマチスは種類によって、「早咲き」「中咲き」「遅咲き」と咲く時期がずれていて、「花のリレー」と紹介されています。以下の表が詳細です。

早咲き（4月下旬から5月下旬）	モンタナ系、パテンス（カザグルマ）系など
中咲き（5月下旬）	テッセン、八重咲き品種など
遅咲き（5月下旬から6月下旬）	ジャックマニー系、テクセンシス系など

今回私が見てきたのは早咲きの品種がメインでした。このような感じです。写真を撮るのに夢中で、花の名前まで記録できませんでした。ご了承ください。



クレマチス園では、クレマチス栽培についての講座も行っていました。もう受付終了してしまったようですが、植物研究部の方が詳しく教えてくれます。私が訪れた日も、講座が開催されており、にぎわっていました。

春の終わりと初夏の訪れを告げる華やかなクレマチス。美しく咲き誇る様をこの記事で体感して頂けたら幸いです。季節の変わり目となりますので、皆様お体ご自愛下さい。

(人文社会科学研究群 人文学学位プログラム 博士前期課程2年 磯良春佳)

5. 映画ロケ地・妻木バッティングセンター



突然ですが、つくば市にはドラマ・映画のロケ地となっている場所が数多くあることをご存知でしょうか。例えば、つくばセンター広場（つくば市吾妻）は、仮面ライダーやスーパー戦隊シリーズの撮影に使われています。

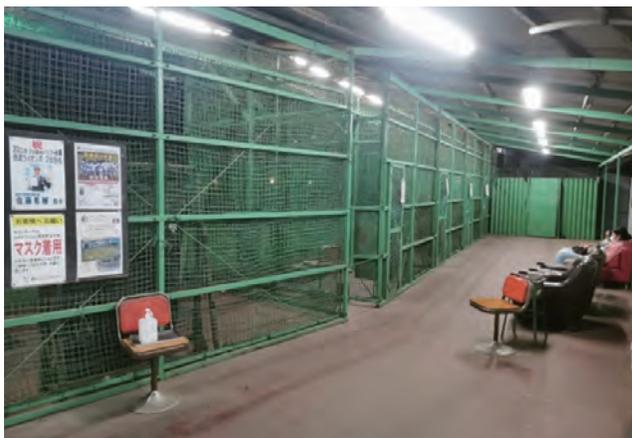
また、筑波大周辺にも映画のロケ地があります。北野武監督の「アウトレイジビヨンド」（2012年10月公開）のシーンの一部が、妻木バッティングセンター（つくば市天久保2丁目4-15）で撮影されました。今回は、意外にも大学近くにあったロケ地、妻木バッティングセンターを実際に訪れてみたいと思います。

と、その前に。アウトレイジビヨンドってどんな作品なの？と気になりますよね。同作は、ヤクザ界の壮絶な権力闘争を描いた前作「アウトレイジ」の続編です。簡単なストーリーは公式ホームページ（<https://www.warnerbros.co.jp/outrage2/>）で確認できます。

妻木バッティングセンターで撮影された映画のシーンも紹介します。茨城県南の地域情報紙「月刊 ezpress.」によると、「元村瀬組若頭・木村（中野英雄）が経営するバッティングセンターで働く木村の手下の嶋（桐谷健太）、小野（新井浩文）が球が出てこないとクレームをつけるお客に対応しているシーン。言いがかりをつけるなど、再び動き出した機械を前に自分たちがバッティングを始め、帰りたくても帰れない工場作業員とのやり取りを妻木バッティングセンターで撮影」とのことでした。

中学・高校と万年文化部&運動音痴の私では心もとないので、運動部経験者でサークル同期のAさんと後輩のBさんの協力の下、妻木バッティングセンターの魅力をお届けします。

足を踏み入れてみると、なんだかレトロで懐かしい雰囲気でした。(1、2) お店の人に聞いてみると1977年(昭和52年)から営業しているそうです。営業時間は10時から22時で、定休日は月曜日です。



①妻木バッティングセンター店内
(5月6日撮影、以降写真全て同日撮影)



①②妻木バッティングセンターの店内

ここではバッティングセンターだけでなく、卓球やオートテニスでも遊ぶことができます。それぞれご紹介します。

①バッティングセンター

- ・料金：1ゲーム（10球）100円（③）。両替が必要な際は入り口の受付でできます。
- ・速さと台数：80kmが2台、110kmが5台（④）、120kmが1台、140kmが1台



③料金を入れる所とバット



④110 kmのボックスの一つ

私とBさんはバッティングセンターが初めてでした。Aさんは以前、妻木バッティングセンターに来たことがあるようで上手に打ち返していました。また、Bさんは80km、110kmと回を重ねるとすぐに球がかするように、また打てるようになっていました。初心者の方でもまずは80kmのボックスから挑戦してみてもいいのではないでしょうか。え…私ですか？下の写真を見て察していただければ幸いです。（80kmのボックスで1球もかすりませんでした）



上手なAさん



上達が早いBさん



へっぴり腰の筆者

②卓球

- ・料金：30分 500円（1台につき）、入り口にある受付で料金を払います。1台にラケット二つ、ボール1個を貸してくれます。
- ・卓球台は全部で3台ありました（⑤）。

これまた私は実際に卓球をするのが初めてでしたが、とても楽しめました。軽く運動したい時に最適です。話は変わりますが、任天堂のゲームソフト「はじめてのWii」のミニゲーム「ゆびさしピンポン」（卓球のゲーム）が懐かしくなりました。



⑤ 3台ある卓球台



卓球経験者Bさんのスマッシュに慄きました

③瓶ジュースの自販機

良い汗をかいたところで、昔懐かし瓶ジュースの自販機で飲み物を買って休憩しました。（⑥）コカ・コーラ 120円、ファンタグレープ 120円、HI-C オレンジ 120円、ジンジャーエール 120円でした。瓶の蓋を開けるものがないなと思い、聞いてみると自販機自体に蓋を開けられる部分（⑦）があり、驚きました。また、私はファンタグレープを買ったのですが、瓶バージョンを初めて見ました。ロゴが可愛いです（⑧）。



⑥ 瓶ジュースの自販機



⑦ 瓶の蓋を開ける部分



⑧ 瓶ジュースで乾杯

④オートテニス

- ・料金：1ゲーム 200 円。ラケットは受付にて 100 円で借りることができます。
- ・スピード（自在、ハイスピード、スピード、スロー）とコース（自在、左側、中側、右側）を選択できます。



Aさんは後日筋肉痛になっていました（ごめんなさい）

いかがだったでしょうか（何かのまとめサイトみたいですね）。コロナ禍で未だ気軽に外出しづらい日々が続いています。私もオンライン授業が多いので、今回は体を動かす良い機会になりました。漂う昔ながらの雰囲気も、汗を流した後にふかふかのソファに座って飲む瓶ジュースもとても良かったです。近くにあるのにこれまで行ったことがなかったのですが、また一つつくばの面白いスポットを知ることができたように思います。ワンコインで気軽に運動がしたい方、レトロな雰囲気を味わいたい方におすすめです。

参考文献

つくばフィルムコミッション「つくばロケ地探訪マップ」（最終閲覧日 5月9日）

https://tfcr.jp/?page_id=2431

茨城県南の地域情報紙「月刊 ezpress.」「映画『アウトレイジビヨンド』（2012年10月号）」（最終閲覧日 5月9日）

<https://ezpress-1.com/3771>

（人文・文化学群 比較文化学類4年 北川瑠菜）

6. つくばと「がま」の不思議な関係



大学時代をつくばで過ごされた読者の皆様なら、一度は筑波山に登られたことがあるのではないのでしょうか。

GW の晴れた日の土曜日…筑波山の温泉街近くに、車を止め、お土産物屋さんを物色しつつ、御神橋の横を通り抜け、随神門をくぐろうとしたとき、門の横にできている人だかりが目に入ります。

さあさあ、お立ち合い。

御用と忙ぎでなかったら、ゆっくりと聞いておいで。

遠目山越えは笠の内。聞かざる時は、物の出方・善悪・黒白がトーンと分らない。

山寺の鐘がグォーングォーンと鳴ると雖も、童子一人来たって鐘に撞木をあてざれば、鐘が鳴るのか撞木が鳴るのか、トントその音色が分からぬのが道理じゃ。(筑波山ガマ口上保存会ホームページより引用)

人だかりの中から、小気味の良い声が聞こえてきます。これは、「ガマの油売り口上」といって筑波山の名物であり、つくば市の無形民俗文化財にも指定される伝統芸能です。

「ガマの油」の始まりは戦国時代にあります。筑波山・中禅寺（現筑波山神社）の住職であった光誉上人（こうよししょうにん）が大坂冬の陣・夏の陣で従軍した時に、負傷した兵士に塗ったところ、血がすぐに止まり、痛みも治まったことが始まりと言われています。そして、「ガマの油」が飛躍的に有名になったのは、江戸時代の筑波山麓新治村の農民の息子、永井兵助によるものだと言われています。

茨城県の HP には、以下のように記載されています。

彼は 16 歳だった 1753 年に江戸に出て仕事をしていたがうまくいかず、筑波に戻ってきました。途中筑波山の夕日の美しさを見て足を止め、お参りのために神社に寄ったときに、ガマの油売りを見かけたといひます。これを江戸で売ろうと思ひ、ガマ石に上り一週間考え、この口上を思ひついたと言ひられています。ガマの油を江戸で販売すると大成功。大金持ちになったといひのが言ひ伝えです。侍の格好をするようになったのは、永井兵助がそのような格好をしていたといひ資料が残っていたからです。

のちの明治、大正、昭和になって、筑波山の商店街や旅館の町おこしとして大々的に PR されるようになりました。--

「ガマの油」の原料はセンソという中国渡来の生薬で、ヒキガエルの耳の後ろあたりから出る分

泌液を集めて成型したものです。これには、局所麻酔作用と止血作用があり、上記の効能につながったそうです。さて、そんな「ガマの油」ですが、現在は、ワセリンなどが配合された軟膏が売られており、肌荒れ、保湿に効果があるそうです。

私自身、出身も北関東で、筑波山の名物が「ガマの油」とはなんとなく知っていました。ただ、大学に入って筑波山について見聞きしていくうちに、日本百名山で「坂東無双の霊山」として信仰を集める筑波山とカエル？と、ぼんやり不思議に思っていました。筑波山出身の人が「ガマの油」を広めたから名物になったんですね笑。

こうして、ガマの油売りを見学し、筑波山神社にお参りしたあと、買い物をしようとテクノパーク桜地区に立ち寄りました。運転中、ふと横を向いた時に目に入ったのは、がまの石像？（写真 1）OB・OG の皆様もテクノパーク桜でカエルの石像を目にしたことは一度はあるのではないのでしょうか。しかも、このカエル、石像ごとにポーズが違います。



写真1テクノパーク桜のかえるの像 出典：筆者撮影

一体、このカエルはなんなののでしょうか。気になって調べてみたところ、一つの記事につき当たりました（本記事末尾に書誌情報）。記事によれば、テクノパーク桜のカエル像は、約 30 年前のテクノパーク桜の開発工事が行われていたときに、工事の一部を請け負っていた桜川市の石材業者に、設計会社から「筑波山の象徴、ガマガエルにちなんだ石像を作ってほしい」との依頼があって作られたそうです。

私が見ているこのカエル像は、テクノパーク桜ができたときから、私たちを見守っていたと考ええると、このユーモラスな表情をしたカエルたちも少し頼もしく見えてきます。

そんなテクノパーク桜では、まちづくり団体「テクノパーク桜まちづくりを考える会」によって、地区内の36体あるカエルの石像を主人公に、絵本『36匹のかえるちゃん』が発行されています。36体のカエルの石像が会議をし、音楽のあるまちづくりをしていく物語で、筑波大学の卒業生も制作に携わっているそうです。この作品はYouTube上でも公開されています（写真2）



写真2『36匹のかえるちゃん』

出典：<https://www.youtube.com/watch?v=Epf18kyqz10> より転載

霊山筑波山から降りてきたカエルたちも、桜で悠々自適に暮らしているようです。あの頃、買い物途中に目にしたカエルたちにふとしたときに思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

・参考資料

No.7 茨城県つくば市に伝わる「ガマの油売り口上」、その魅力とは. いばらきの伝統文化.

〈<http://www.bunkajoho.pref.ibaraki.jp/dento/topic/No.-7- 茨城県つくば市に伝わる「ガマの油売り口上」>〉（最終閲覧日 2022年5月7日）

筑波山ガマ口上保存会ホームページ. 〈<http://nagaihyousuke.gamagaeru.jp>〉（最終閲覧日 2022年5月7日）

鹿野幹男「住宅地にカエル像36体なぜ 住民が謎解きに挑戦、探り当てた答えは」,「朝日新聞朝刊」2022/02/22, p.21.

カエル像36体の物語 つくばテクノパーク桜 住民ら絵本づくり. NEWSつくば.

〈<https://newstsuba.jp/36336/24/01/>〉（最終閲覧日 2022年5月7日）

テクノパーク桜 カエル絵本読み聞かせ 36匹のかえるちゃん. YouTube.

〈<https://www.youtube.com/watch?v=Epf18kyqz10>〉（最終閲覧日 2022年5月20日）



編集後記

ペデジャーなる春号を最後までお読みいただきありがとうございます。今年度の編集長を務めます、北川です。

最近日差しが強くて暑かったり、雨が降って寒くなったりと寒暖差が激しいように思います。まだ冬物から夏物へ完全に衣替えすることはできなさそうです。お気に入りのTシャツたちが待ち通しそうにタンスに眠っています。

最近ニュースなどで「コロナ禍3年目」という言葉をよく耳にします。「学生のうちに海外行きたかったな」「サークルの皆とお出かけや合宿したかった…」と切ない気持ちになります。ですが、新歓祭本祭が3年ぶりに対面で行われるなど、徐々に日常を取り戻そうとしている様が見受けられてうれしく思います。

今号は、つくば市から土浦方面への坂道・筑波実験植物園のクレマチス園・映画ロケ地の妻木バッティングセンターを紹介するもの、東京レインボープライドに参加したルポ、大学生活から見る「当たり前」の問い直しやつくばと「がま」の関係に迫ったものなど、それぞれの個性や視点が生かされた記事が揃いました。

ペデジャーなるではコロナ禍でも変わらず、筑波大やつくばの「今」を切り取り、その魅力や懐かしさを学生目線でお届けしていきます。

(人文・文化学群 比較文化学類4年 北川瑠菜)



Twitter、Facebook で筑波大学の情報を発信しています

事業開発推進室では、大学や在学生の「今」を伝えるため卒業生に向けて Twitter、Facebook でも情報を発信しています。

学生の様子、学内の景色や、大学の取り組みなどはもちろん、在学生・卒業生が交流できるような企画を増やしていきます。

卒業生が楽しんでいただけるお知らせやその他イベントについても告知していきますので、ぜひフォローをお願いいたします。発信してほしい情報がありましたらお知らせください。



🌀 筑波大学大学基金 <https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/>

🌀 筑波大学アプリ「TSUKUBA FUTURESHIP」<https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/futureship.app/>

🌀 日経 VR「オープンキャンパス 360°～筑波大学～」

https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/NIKKEI_VR/



Tsukuba FutureShip (筑波大学) Facebook



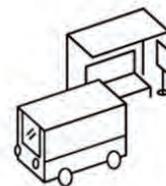
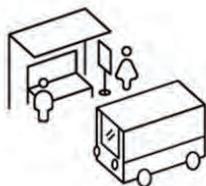
TSUKUBA FUTURESHIP (筑波大学公式) Twitter



創基 151 年筑波大学 50 周年記念基金事業「FUTURESHIP SEAT PROJECT」開始 !!



FUTURESHIP SEAT
PROJECT



筑波大学は来年度、開学 50 周年を迎えます。FUTURESHIP SEAT PROJECT は、創基151年筑波大学50周年記念基金事業の一環として、国内有数の広いキャンパスを持つ筑波大学の中にある数多くのイスのリニューアル等を通じて、今まさに学びを深めている学生と、昔ここで学んだ卒業生や筑波大学を応援している方をつなげていくプロジェクトです。筑波大学の中にあるたくさんのイスは、毎日多くの方が利用し、たくさんの思い出が詰まっています。

第一弾として、筑波大学生の日々の生活に必要な不可欠なバス停のイスのリニューアルがスタートしました。イスにはご寄附をいただいた方からの「ご芳名」と「メッセージ」を刻印したプレートを取り付けています。卒業生や筑波大学を応援して下さる方からの想い、ぜひご覧ください。



筑波大学附属病院
入口バス停（右回り）

メッセージプレート



その他、様々な
50 周年記念基金事業を
予定しております。詳細は
以下をチェック !!

[https://futureship.
sec.tsukuba.ac.jp/](https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/)

- 編集・発行：「ペデジャーなる」編集ワーキンググループ
- デザイン・配信作業：国立大学法人筑波大学事業開発推進室
- ご意見・問い合わせ先：国立大学法人筑波大学事業開発推進室
〒305-8577 茨城県つくば市天王台1丁目1-1
TEL：029-853-2030 FAX：029-853-6576



メールマガジンの一部または全部を無断転載することを禁止します。 ©2022 University of Tsukuba.

「ペデジャーなる」のバックナンバーはこちらから
筑波大学メールマガジン『ペデジャーなる』（tsukuba.ac.jp）

配信先・ご住所などの変更は以下のフォームよりご登録をお願いいたします
登録フォーム <https://forms.office.com/r/0ndsbfM04q>